

平成26年度 小学校教職員を対象とする環境教育研修会 実施報告

「やってみよう！環境学習プログラム」第2回「食べ物の旬と昔の暮らし！」

(テーマ：食・ごみ)

□実施日時 平成26年7月28(火) 10時00分～16時15分

□受講者数 28名

□実施場所 J A東京中央フーズマーケット・J A東京中央鎌田支店ほか

□実施内容

【午前】

1. 事務連絡・開講挨拶等

- ・事務局(研究所)から受講上の注意、全体スケジュール等の説明
- ・環境局環境政策課から開講挨拶等

2. ゲストティーチャーからの講義

(1) 世田谷野菜生産現場見学・収穫体験と生産者の話

(ゲストティーチャー：世田谷区 橋本 弘氏)

- ・東京の野菜生産現場と諸環境について
- ・野菜生産と自然との関わり
- ・旬の野菜と地産地消・・・収穫体験と旬の野菜試食



野菜畑で、今まさに旬の野菜を実感。トマト、キュウリそして生のピーマンの甘さに驚く。

(2) 旬の野菜・東京野菜の体感

(東京中央農業協同組合の協力による同組合直営店「ゆっくりとカフェ」にて、
世田谷産の野菜を使用した昼食)



「ゆっくりとカフェ」



本日のメニュー世田谷野菜と一緒に

【午後】

3. 江戸東京野菜の成立と世田谷の農業

(ゲストティーチャー:世田谷区 農業青壮年連絡協議会 会長 高橋 光正氏)

- ・江戸東京野菜とは？地域ごとの栽培と現代の野菜との違い。
- ・江戸東京野菜の成立と当時の自然環境「環境学習の意義」について
- ・世田谷の江戸東京野菜の栽培
- ・昔の農機具と暮らし、ゴミを出さない工夫

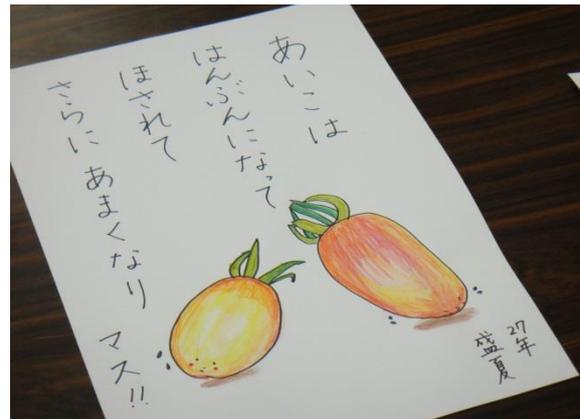


4. 環境学習プログラム「食べ物からエコを考えよう！」の紹介及び実習

(講師：特定非営利活動法人 環境学習研究会理事長 谷村春樹)

(1) 「食べ物からエコを考えよう！」プログラム紹介

- ・「食べ物からエコを考えよう！」
食料生産を学ぶ学習とともに、
地産地消や野菜の旬など、環境に
関わる視点を取り入れることにより、
食と環境の密接なつながりを学ぶ。
- ・食育カルタ・絵手紙の作成方法と
授業での活用方法
- ・食育カルタ・絵手紙の作成体験
- ・エコ汁レシピを通じたゴミを出さ
ない調理方法の紹介



(2) 「環境学習の意義について」 (各回共通説明事項)

子供の健全な成長には、バランスよく理性と感性の両方を伸ばしていく必要がある。特に現代では、日常生活において実感を伴う様々な「体験」が不足していること、それゆえに学校において「体験」を伴う学習の必要性が増してきている。環境学習は、学校における各教科学習を基礎に、それら教科学習と関連させて実施することが大切である等の説明があった。

○「森は命の源」

生物多様性をはぐくみ、時には海の生き物まで育てる森の仕組みは、私たちの生活の基である食を支える、食べ物を育てるエネルギーの循環の場所である。

この仕組みを知り、森を支える環境について理解することは重要である。

(3) まとめ (質疑応答及び受講者同士の情報交換)

この日の研修を通じて、気づいたこと、感じたこと、授業での活用方法や各学校で実施した関連事例等について、また、体験作成した絵手紙・カルタを受講者が一人ずつ発表し、講師がコメントをして、受講者で情報を共有した。

(主な発表)

- ・実際の体験の大事さが身にしみました。
- ・食と環境のつながりの重要性を認識できた。
- ・また、それを授業に生かす方法も大変参考になった。



5 事務連絡、アンケート記入等 (事務局)

アンケート提出後解散